サザンカのふていき便
すちゅーでんと版
第32号
令和8年10月1日発行
一般財団法人日本グラウンドワーク協会

大学生からのメッセージ

「宝の山」

秋田県立大学　生物資源科学部　3年
斗沢　陸

あなたは山を見てどんな印象を受けるだろうか。雄大で美しいと感じる人もいれば、何もないと感じる人もいるだろう。私には本当に宝の山に見えるのだ。樹木の他、山菜やキノコといった特用林産物、また、水源として河川や海岸の環境を支えるとともに土砂災害を防ぐなど防災の役割も果たしている。国土の約4分の3を占める山地・丘陵地はこの国にとっての生命線、宝と言えるのではないだろうか。

秋田の県北という山に囲まれた地域でずっと生きてきた私だが、自然と関わりを持つ人も減り、自分も特に関わらず、幼少期は山を開発してビルとか建てるべきなのに、なんて無駄な土地なんだとさえ思っていた。

そんな私に山の価値を気づかせてくれた人が父方の祖父である。かつて祖父はよく一人で山に行き、たくさんの山の幸を家族に持ってきてくれた。フキ、ミズ（ウワバミソウ）、ワラビ、シドケ、クリ、さもだし（ナラタケ）、どれも立派で美味しかったのを覚えている。祖父は若いときに祖母と共に他の土地から来た人で、最初は土地勘が無く知り合いもいない中、一人で山に入り、山菜やキノコの生える場所を見つけていったという。

高校を中退し何もない時間を過ごしていたころ、ふと山のことについて知りたいと思い、祖父に山に連れて行ってほしいと頼んだ。ともに山菜取りに行くことになり、山に入るとすぐ近くに住宅地があるとは思えないほど豊かな自然が広がっていた。特に驚いたのは大きなミズが斜面一帯を覆いつくすほど生えていたことだ。祖父とともに籠いっぱいになるほどとっても、まだ無数に生えている、まさにミズ畑ともいうべき光景だった。

その後、何回か祖父と共にタラノメやワラビを取りに行ったが、これらの経験を経て、何もないと感じていた山や草木たちが、価値あるものへと私の中で変化していった。翌年からはクマの問題が本格化し、山に入ることは家族から禁止された。それでも、たった1年間、数回の祖父との山菜取りは、山の大切さを体感したとても重要な経験だった。

自分にとって山の師匠といえる祖父だが、夏休みに入る2日前に突然亡くなった。私は祖父から学んだことで、山のことを一部ではあるが受け継ぐことができたが、受け継がれずに価値がないものとして失われてしまうものもあるのだろう。祖父が言っていた、「ここらの人はゼンマイのやり方（下処理）を知らねえ、だからたくさん生えてても採って食わねえんだ。」という言葉が印象に残っている。この言葉が示すように、きっと知らない、わからないだけで価値があるものがまだまだたくさん山には存在するのではないだろうか。

実際、県南には、県内産の木でキノコを栽培し、その後の朽木をカブトムシ、クワガタの飼育に利用し、さらにその糞を肥料として野菜の栽培につなげるなど、天然資源を循環させながら新たな価値を生み出している企業もある。こういった地元の天然資源の理解と活用がこれからの地方社会の活性につながっていくと私は信じている。祖父が私に山の価値を教えてくれたように、今度は私が、新しい価値を見つけ、それを次の世代へ伝えていけるようにしたい。そのために、山などの天然資源の価値をさらに学び、発見しその価値を証明していくこと、それが現代の地方社会に生きる私の生きる道であり、使命である。

「就職活動情報」

「農業農村工学会系就職情報交換ツアー」が開催されました。

当ツアーの目的は、農業水利施設等農業農村整備関連施設の見学を行い、学生の農業農村工学の知識、理解、興味を深めてもらいます。加えて、農業農村整備分野の業界の業務に関するプレゼンを行い、学生に農業農村工学系の就職先の魅力を知ってもらうとともに、就職先の判断材料を提供するものです。当ツアーは毎年各農政局管内順番で開催しています。

【ツアー概要】

対象学生:3年生、M1生

開催日:9月3～4日

開催場所:福岡、佐賀県内

参加大学:九州大学、佐賀大学

参加学生人数:18名

【見学した施設】
①合所ダム（農業、上水道用;うきは市）
②筑後大堰（久留米市）
③山田堰（朝倉市）
④中村哲記念碑（朝倉市）
⑤横武クリーク公園（神埼市）等
施設見学に加え、見学後に、九州農政局、福岡県、佐賀県、水資源機構、コンサルタントから業務等に関するプレゼンテーションが行われました。

【参加した学生からの感想】
「農業水利施設の構造物、仕組みを実際に見て大学で学んだことがよく理解できた。」
「プレゼンを受けて、農業農村工学系の就職先こと、魅力がよくわかった。就職したくなった。」
などの感想が述べられました。

なお、本ツアーは、（一財）日本水土総合研究所が主催で、当協会が企画、運営に協力しています。


合所ダム


筑後大堰


山田堰


横武クリーク公園


各業界によるプレゼン

行こうよ！水土里の旅！

◘ 深田池　（奈良県橿原市）



奈良・橿原神宮の南側に広がる「深田池」は、もともと周辺の田畑を潤すための農業用ため池として築かれました。畝傍山から流れ込む雨水を蓄え、必要な時期に農地へ送るという、まさに古代の農業土木技術と人々の知恵が詰まった重要な水利施設です。

その歴史は驚くほど古く、飛鳥時代にまでさかのぼるとされます。『日本書紀』の推古天皇21年（613年）に造られた「畝傍池」がこの深田池だと考えられており、明治時代に創建された神宮よりもはるか昔、約1400年前からこの地に存在していることになります。

かつては久米・畝傍・大久保・山本・慈明寺・四条・寺田の7集落からなる「池郷」によって利用されていた農業用ため池でしたが、現在は灌漑機能を失っており、現在では豊かな自然を楽しめる憩いの場となっています。

遊歩道が整備された池のほとりでは、春の桜、夏の睡蓮、秋冬の水鳥など四季折々の風景が広がり、晴れた日には池越しに葛城山や金剛山を望むこともできます。華やかな観光名所というよりも、古代から続く土地の記憶を静かに感じられる場所です。近鉄橿原神宮前駅からも歩いて訪れることができます。参拝の際はぜひ足を延ばし、1400年前の人々も眺めたかもしれない歴史ある水辺の景色をゆったりと味わってみてください。

今年の11月には奈良県で「全国土地改良大会」という、全国の土地改良事業に携わる関係者が一同に会する大会が行われます。皆さんも是非とも奈良を訪れてみてください！



橿原神宮
奈良県橿原市に鎮座し、初代・神武天皇と皇后を祀る神社です。日本建国の地とされる橿原宮跡に明治23年（1890年）に創建され、畝傍山の麓に広大で厳かな神域が広がります。



柿の葉寿司
奈良県吉野地方を代表する郷土料理です。塩鯖やサケをのせた一口大の酢飯を、殺菌作用のある柿の葉で包んだ押し寿司で、葉のさわやかな香りが魚の旨味を引き立てます。

【情報提供】　サンスイコンサルタント株式会社

農業土木技術ープロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術ープロの仕事」。今回は、ドローンやAIといった新しい技術を活用した土地利用状況調査への取り組みについてご紹介します。

1. 土地利用状況調査について

農業農村整備事業における土地利用状況調査は、事業計画の策定や実施設計を行うための基礎資料を作成する初期調査です。登記簿上の地目ではなく、「実際の現況」を正確に把握することが必要ですので、現地に赴いて現況を直接目視したり、場合によってはヒアリングを行うなど、非常に手間がかかる作業です。

2. 新しい試み

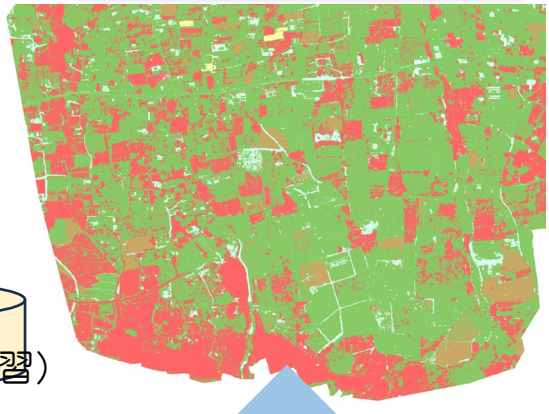
省力化のため、ドローンによる空撮および、AIによる画像分析を組み合わせてみました。AIには模範となる教師データを読み込ませて、農地や休耕地等のパターンを学習させたうえで、ドローンの空撮画像から判定をさせてみました。

ドローン撮影画像



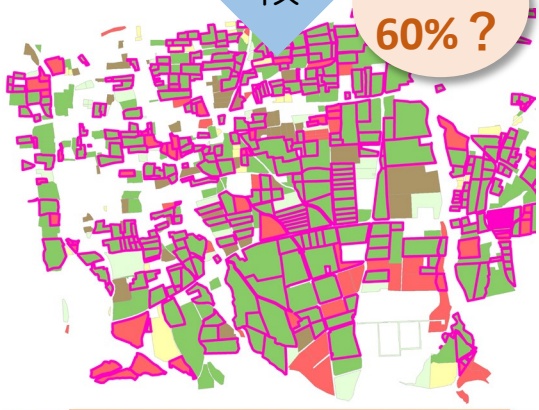
教師データ
（パターンの学習）

AIによる画像解析結果



比較

一致率
60%？



現地調査による土地利用状況調査結果

3. 結果と今後に向けて

今回の業務においては、実際に現地調査した結果と照らし合わせて精度を検証したのですが、一致率はおおむね60%くらいといったところでしたので、実はまだまだ本格的な活用に向けては改善の余地が大きいという結果となりました。

ただ、それでもテクノロジーの進歩による業務の効率化や精度の向上は農業農村整備の現場においてどんどん進んでいっていることを日々感じています。

テクノロジーの活用で仕事はもっと面白くなっていくと思います。皆さんもぜひ農業農村整備の門戸をたたいてみてください！

【情報提供】 サンスイコンサルタント株式会社

サークル活動紹介/クラウドファンディングご案内

「琉球大学　おきなわ食・農研究会　活動紹介」

私たちは、琉球大学「おきなわ食・農研究会」です。このサークルでは、農作業や園芸活動を実際に体験することを通して、農業や食について学び、その楽しさや魅力を感じることを目的に活動しています。普段の大学生活ではなかなか経験できない作物の栽培や収穫を自分たちで行い、作物を育てることの大変さや楽しさを体験できることが特徴です。





主な活動は、大学構内の農場で行っている園芸活動です。季節に合わせてさまざまな作物を育て、種まきや苗の植え付け、水やり、草取り、収穫など、作物の成長に合わせた作業を学生自身で行っています。収穫した作物を実際に食べることも、活動の楽しみの一つです。また、大学のキッチンを借りて、沖縄の伝統料理を作る活動も行っています。写真は田芋を作ったときの様子です。

大学構内での活動だけでなく、沖縄県内の農業について知るためのフィールドワークも行っています。県内各地の農業風景を見学したり、農業用水を支える水利施設を訪れたりすることで、沖縄の農業がどのような環境や仕組みに支えられているのかを学んでいます。実際に現地を訪れることで、地域の農業の特徴や沖縄の自然環境との関わりを知ることができます。





［情報提供］　クラウドファンディング（地域応援型）のご案内

三重県庁が棚田保全のためのクラウドファンディングを開始しました。集まったお金は、三重大学の学生の棚田保全活動にも使われます。

https://www.satofull.jp/projects/business_detail.php?crowdfunding_id=726

農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

◘日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。
https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/

［発行・お問合せ先等］　一般財団法人日本グラウンドワーク協会　中里
Tel:03-6459-0324　　Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者（大学生等）参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。